

景況レポート

(12月分・情報連絡員80名)

製造業の景況DIが 54カ月ぶりにマイナスを脱した

【概況】12月分の県内景況は、前年同月と比較して、景況が「好転」したとする向きが12.5%(前月調査12.5%)、「悪化」が41.3%(同36.3%)で、業界全体のDI値は-28.8となり、前月調査と比較し5.0ポイント下回った。

内訳として、製造業全体のDI値は0.0で前月調査(-6.2)に比べ6.2ポイント上回った。また、非製造業全体のDI値は-47.9で前月調査(-35.4)と比べ12.5ポイント下回った。

製造業の景況は4カ月連続で改善した。先月に引き続き、製材関係と繊維製品の受注が好調で、売上と操業度がプラスに転じた。

非製造業は、家電エコポイントの減額、冬期の工事減少等で全体的に景況が減退した。(回答数:80名 回答率:100%)

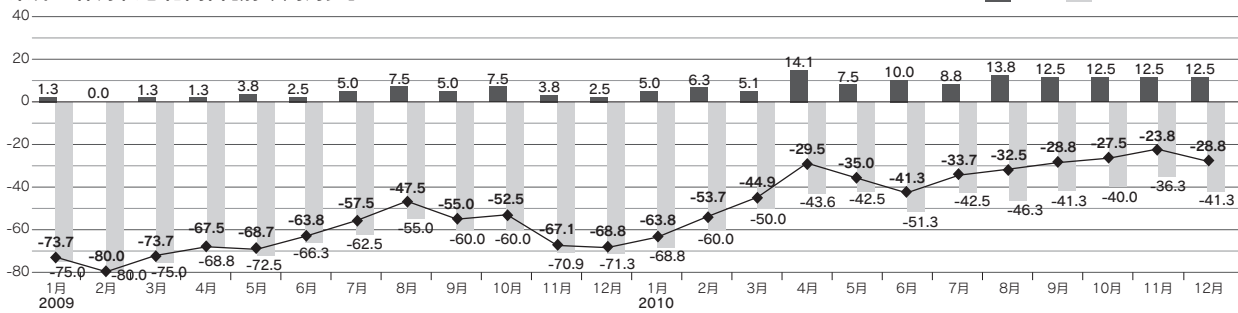
項目	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業	☁	☁	☔	☔	☔	☁
非製造業	☔	☔	☔	☔	☔	☔

【凡例】

 快晴 30以上
 晴れ 10以上 30未満
 曇り △10以上 10未満
 雨 △30超 △10未満
 雷雨 △30以下
 【天気図の見方】前年同月のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index (ティフュージョン・インデックス) の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

業界全体好転悪化割合[前年同月比]



業界の声

- パン製造** 売上は少しずつ持ち直してきているが、原料価格が上昇気味で、1月からの業況は厳しくなることが予想される。
- 麺類製造** 県外からの低価格商品が多く(そば3食で88円や98円)、組合員は苦戦した。また、年越しだからおそばを食べるという風習が薄れてきているように思われる。
- 繊維製品**
 - 【秋田市】中国経済が好調で需要増となっており、中国では自国向けが増加している。このため品質管理の厳しい日本向けは減少の方向にあり、加工が国内に戻ったため、受注は1~3月までオーバー気味である。
 - 【由利本荘市】一部の工場は、冬物の追加が出て納期に追われた。春物の生産が始まり、昨年より受注面で多少増加が見られた。中国生産から国内生産への移行が活発化して、工場では国内水準の加工賃を受け入れることを条件に交渉が続いている。
- 一般製材**
 - 【大館市】国・県の施策(エコポイント、リフォーム補助、長期優良住宅補助等)の効果のためか、製材品の動きが良く、各工場とも忙しい。原木は供給不足気味で高値で推移している。
 - 【仙北市】製品については5%程の値上げが叶ったが、原料となる仕入材の価格の値上がりもあり、利幅は変化なしであった。
- 曲わっぱ製造** 販売は、地域により前年度並みのところもあるが、地方は減少している。地元の体験工房は人気が高く、体験者が増えつつある。
- 自動車販売** 11月の新車販売台数は、登録自動車が1,286台(前年同月比65.3%)、軽自動車1,191台(同83.9%)で、合計2,477台(同73.1%)であり、4カ月連続の前年割れとなった。
- 石油販売** ガソリン1ℓ当たり132円で前月比2円引き上げ、軽油1ℓ当たり113円で前月比2円引き上げ、配達灯油は18ℓで1,438円と前月比41円の引き上げとなった。12月下旬に原油価格が90ドル台につけるなど、原油高の再燃が懸念される。
- 商店街**
 - 【秋田市】歳末商戦は、御所野、駅前大型店に客足を取られ年々売上額は減少してきている。セール期間中は若干の売上増に繋がったが、20日過ぎはクリスマスケーキ等の売上も前年対比で3割減となるなど、売上は総体で前年を下回った。
 - 【大館市】12月商戦も来街者は普段の月と変わらず、売上も相変わらず下降傾向にあった。商店街に最寄品の店が無くなり、買い回り品の店だけが残っている。空店舗への新規出店は全て飲食関連であり、夜の賑わいにしか繋がっていない状況である。
- 電気工事** 【秋田市】住宅リフォームのエコポイント効果により、電線の張り替え工事等が増えた。また、年末までに完成したいとの駆け込み需要と相まって、超多忙な工事店もあった。